

## 令和4年第2回

### 清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：令和4年2月18日午後6時から

場 所：市役所4階研修室

出席委員：井澤委員、上村委員、有働委員、菊谷委員、小寺委員、佐合委員、  
佐々木委員、関根委員、竹内委員、花岡委員、早坂委員、前川委員、  
増田委員、山村委員、柳瀬委員  
オンラインによる出席：朝倉委員、大森委員、関委員、望月委員

事務局（企画課長、市民協働係長、企画調整担当主査、市民協働係主事、  
企画調整担当主事）

欠席委員：田鹿委員

#### <配布資料>

- 1 令和4年第2回 清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 前回の振り返りとして（補足）
- 3 資料1：まちづくり委員スケジュール案（改訂版）
- 4 資料2：ワークショップ（WS）案について
- 5 資料3：K i y o s e \_ F r e e \_ W i - F i 利用方法について
- 6 まちづくり委員会提案用紙
- 7 通信環境についてのアンケート

## 1 開会

委員長挨拶

配布物の確認を事務局よりお願いします。

<事務局より配布物の確認>

前回欠席「竹内委員」より挨拶

## 2 前回の振り返り

委員長：今回は資料が多く、詰め込んだ会議であった。疑問あることは解決していききたい。伝えたい事があれば発言いただきたい。前回まちづくり委員会とは何かということでありながらいきなりワークショップ案

やSDGs、実行計画などの説明でわかりづらい部分があったと感じた。その補足を兼ねて説明する。

「前回の振り返りとして（補足）」に基づき説明。

また再度日程の調整を行いたい。3月は17日で決定である。4月以降はできるだけ早めに周知する。補足については委員再開の主旨、学生入れたワークショップ開催の主旨の内容である。意見を出していただき進めていきたい。

副委員長：前回の振り返り含め意見はあるか。

委員：まちづくり委員が何を目的にしているのか。条例の中に市民提案及びこの条例が適切に運用されているかそれぞれ審議し、結果を市長に報告するとあり、行政と市民の協働をいかに作りだしていくかの方向性の検討が必要だと思っている。委員会が何を目的にやっていくのか、本当に市民参加が拡充されたのか評価が必要。市民参加を進めていくことができているか。行政と市民の協働を進めていく提案を審議していくことと思っている。

副委員長：委員の発言に対してでもいいので意見はあるか。

委員：先ほどの意見とは少し違う認識である。協働をチェックするだけの機関ではなく、実行性があることを提言していくことがあり方だと思う。しかし市民意見はいろいろありそれを次々こなすのは難しい。明確な布石があって目指すべきゴール、テーマを絞った形でやるとよい。優先課題をみつけてやっていくことも考えられる。

委員：日程について。第3木曜日と決まった後変更となるとなにも決まらない。会議室の都合ということだが、どこまでならとれるか市の都合もあるがすぐに取りすることで予約できるのではないか。決められることを決めたほうがよい。

委員長：あらかじめ決めた日程で都合合わせていただきたいと考えているので早めに決めた日程を報告する。オンライン参加も可能であるのでできる限り参加をお願いします。

委員：参加できない会もある。事前に提案できる仕組みなどを作れたらよいと思う。

委員：日程のタイミングを教えてください。

事務局：4月は20日、5月は25日を予定している。

委員：木曜日と明記されているのに変わってしまうと困る。きちんとしたルールでやってもらわないと困る。

事務局：木曜日では会議室が確保できなかった。

委員長：2、3か月先までは決めて報告をしていただく。4月に関しては20日、5月は25日としたいので、皆様のご都合はいかがか。この日

程で進めていきたい。また市民参加というところは、ここで問題解決したいとか行政の人と一緒に行動をしていくというよりは、課題を確認していきながら提言し行政にゆだねるということ。ここでなにか解決することではない。いろんな意見がでて小委員会などでも意見をまとめて各関連部署に確認したりするが結果について関連部署に投げるというのが立ち位置。意見を交わしながら時間がかかるが、一年に一つは提言に結びつけようということで活動してきた。いろんな意見をいただきながら行っていきたい。

副委員長：提案を論議する際に、行政と市民が協働していくのかの視点も話合えたらよいと思う。つぎに提案書の議題に移る。

委員長：事前にまちづくり委員会提案用紙を配布した。提案内容とリンクするよう長期総合計画の将来像の分類を入れている。4月以降は幅広く市民提案を集めていこうと思っていることから提案用紙の内容について意見いただきながら改訂していきたい。提出いただいた提案書は後ほど共有する。自分の意見を踏まえながら小委員会を開いて議論していきたい。ワークショップの進め方についても皆さんと意見交換したい。資料はたたき台のイメージで考えてもらいたい。事前にいただいた提案を簡単にいくつか照会する。①平和事業の拡散②交通安全③市のお金④ワークショップの方法⑤喫煙防止関連⑥温暖化対策⑦若者参加⑧健幸維持するため⑨委員会の目的、役割についてなど、煮詰めるには時間が必要なので小委員会などを活用できたらよい。これまでは、ヒアリングや現場の確認などを行い委員として回答していた。基本ベースがありながら変更もしていくので難しいがそれを踏まえた委員ルールを決めていきたい。また⑩地域コミュニティ活性化や⑪安全に遊べる講演⑫起業支援事業の提案⑬魅力あるまちづくり⑭自然環境保全とたくさんいただいた。優先順位、グループ分けを行い多く実行できるようにきちっとした委員意見をまとめて行政に動いていただく、または実行しているものをさらにスピードアップしていただけるような役割としていきたい。

委員：後からは提出も可能か。

委員長：可能である。内容が一緒であれば同じテーマで議論していく。

委員：提案書の内容について漠然としたものでよいのか、アイデアが欲しいということなのかどこに焦点を置いたらよいか。

委員長：提案書は委員用に作成した。今後のデータを集めたい。行政の役割と合わせることで分類も記載した。内容に関しては想いを記載いただくなど特に規程はない。

委員：まちづくり委員会はまちづくり基本条例に基づいての附属機関である。

市民提案と条例が適切に運営されているか審議するということ。まちづくり条例の基本は市民参加である。一人一人が参加できるように、様々な施策が丁寧に広報されるようにということだと理解している。市民提案をみんなで話すというより、市民が参加できるようにすることが重要。市民がまちづくりに参加できる状況になっているのかどうかを一番やらなくてはいけない部分と思う。提案があれば審議し進めてきたと思うが、まちづくり基本条例に基づいて市民参加の方向にしているのかいないのか、参画の保証ができていないのかを論議することだと思う。

委員長：市民参加の形がどうかということ。住みやすいまちにするため行政職員がやっている。やっちはいるが足りないと思える部分があると思う声が出てきているものと思う。やっている、やっていないというチェック機能がまちづくり委員会にはあると思う。参加できていること、いないこと、感じていることがあればご意見をいただきたい。いろんな形でいろんな意見があってもよいと思う。よくお金がないという言葉が聞くが年間予算があり予算の分け具合がある。事業が続くとやっていないと思えることもあると思う。行政が動いている中委員から出た意見で気づく面もあるので、委員会ではチェックする人もいれば提案する人もいてよいと思う。

委員：提案用紙がどういう方向性で使われるか分からなかった。審議は提出の順番ではなく内容だと思う。具体的なものもあれば抽象的なものもある。具体的なことは取り組みやすいがそういうところを委員会ではやるのか。逆に抽象的では広すぎて進みづらい。具体的なこと書くのも問題だと思う。どう書くか難しい。書く内容の書き方を煮詰めていただきたい。

委員：過去どうだからこうしなくてはいけないという話もでていた。検討会を経て再結成されたものと理解している。清瀬市に対して考えるようになった。問題があるからどう解決していくかどう答えればよいかを考えた。提案の中に具体的、抽象的なものを書いていいのか悩むところがあるが思いつくものを出した。長期総合計画を照らし合わせるとあてはまる部分がある。委員会とか清瀬の事とか思った事をなんでも書いて議論する。書いた人がグループに入り議論する進め方であれば進むと考える。市で抱えていると思われるもの、自分たちで出せる限りまたは市民に出してもらえる方法も含め出してもらえばよいと思う。

委員：全体がふわっとして目的がわからない。市民から吸い上げたもので審議するのか、まちづくり委員会の提案を基にこれから話していくのか、そもそも委員全員が提案だすものと考えていない。切羽詰まっ

ている人の意見を拾っていかなくてはいけない。どれが重要なのが見えない。あがってきた提案に対してどう決めていくのか。

委員長：再開後の状態からはじめているので委員が自分の意見がありながら人の意見もあつては身に入らないと思うこともあり、まずは身近な委員の方から提案いただきその内容をみながら議論していこうということで提案をいただいた。4月以降は提案箱等を設置し市民からの意見を集めて同時に進めていきたい。順番という話もあったが、順番を飛び越えることもあるし、同様な意見があれば一緒に審議することもある。まずは委員提案の内容を分類し、精査しながら進めていきたい。委員運営について疑問もありそうなので、これまでのまちづくり委員会を踏まえ新しく今後の運営方法も検討する会も作りたい。長期総合計画の5分類にも分けてどれかに参加いただき意見を活発にしたいと思う。

副委員長：まちづくり委員会の役割は市民からの提案を委員会内で話し合いながら共有し提言していくこと。資料が必要であれば事務局に提出いただき参考資料とする。市民提案と委員も同様な形で提案しそれに基づいて審議していくことだと思う。提案をひとつずつやるよりは5つの分野にまとめられると思う。それをテーマにしていくのかグループにしていくのか整理しながら進めていけたらよいと思う。

委員：それぞれの分野で担当部署がある。疑問や裏付けが必要で直接回答いただけるのかルールを決められたらとよい。

委員：小委員会という話があるが小委員会は別の委員か委員会の中で分けて行うのか。

委員長：月1回の会議なので会議中ではやらずに審議報告をしていただく。報告し皆さんと議論した方がよいというところまでの認識である。

委員：別日になるということか。

委員長：時間が許す限り別日で行っていきたい。たくさんの提案をどんどん議論し各部署につなげていきたいと考えている。

委員：月1回の会合との認識であった。小委員会を開くということであれば月何回かある。小委員会は月1回グループを分けてやればよいと思う。費用としてはどうか。最初に謳われていた内容と現実が乖離してくるのであれば、もう少し話をしたほうがよいと思う。また内容について何でもと言われると書きづらい。タイトルあつて現状はどうですか、現状に対しこうありたい。というように項目を絞った方が書きやすいと思う。まだまだ直す余地はあるのかと思う。結論を出す場ではなく部署に投げるといふ委員長の発言があつたが、それなら提案書というタイトルはいかがかと思う。

委員長：いろんな意見をいただいた。皆様がやりやすいようにしていきたいと

考えている。小委員会はこれまで限られた時間でやっていた。その際の報酬はない。会議中に小委員会をする方がよいか皆さんの意見を聞きたい。

委員：議題によると思う。2時間の中では結構きつい。どこかで集まるということになると思う。委員会の前後で行うとかでもよいと思った。市民提案はこれまでどの程度集まっていたものか。

委員長：提案いただき審議し、委員会として回答したものや提言にもっていこうとまとめたものが提言となった。15年間だとかなりある。多かったときは1年で20提案程だったと記憶している。数をこなしながら行っていたので小委員会で進めていこうという形でやっていた。時代も変わりやり方も変える必要があれば変えたい。委員会ごとに分けた方がいいと思うがいかがか。

委員：分ける分けないということではなく、今日来て良かったという内容ではない。迷走している。なにをどうしたらよいか。はじめての人間がわかるような進めた方をお願いしたい。提案用紙も書きづらかった。具体的なことを書いたが皆さんがどう思うか意見を聞きたい。コミュニケーションを取りたいと思う。ワークショップをこれからやっていくと思うが、それと小委員会がどう違うのか。月1回の会議の中で回るような方法をとりたい。

委員：それぞれ疑問点はあると思うが、同じ方向に向かってないと思う。今回の委員としてまちをどうしていきたいかビジョンを持っていないことだと思う。小委員会もいいと思うが清瀬市をどうしたいか決めることが必要なのではないかと思う。それぞれ感じている課題はあると思うがすり合わせながら、一つのゴールを決めることが大事と思う。ワークショップはやっていくと思うのでそこに時間をかけ、もし難しければ、皆さんの考えていることを出し合うとかしないと、バラバラで終わってしまうと感じる。

委員：会議の提案をさせていただく。提案書は事前に配信していただき、読み込む時間などの時間的スキームをお願いしたい。具体的には会議2週間前までに提案書提出の期限とし、1週間前には資料配布するなど読み込める時間軸ができるとういと思う。小委員会については賛成である。5つの分類に分ければよいと思う。ビジョンとか立ち位置とか意見があるが、ビジョンは「手をつなぎ心をつむぐみどりの清瀬」で決まっている。ここに向かって5つの柱があることで決まっている。提案がそこに向かってるか否か議論を進めればよい。わからないことは行政に聞けばよいと思う。委員の立ち位置で各課に行くのは難しいと思うので会議中に話がでることがわかれば担当部署も参加し共有

してもよい。事務局からつなげると意味合いが変わる場合もある。また、委員内で委員長、副委員長を選出しているので一定の方向性を決めて走っていただいてもよいと思う。会議運営等であればお手伝いさせていただきます。

委員：小委員会について。正式には2時間の中で小委員をやることだと思うが、ボランティアの気持ちを持って小委員会を行いその中で判断しながら審議すれば市のためになると思う。

副委員長：様々な意見を活かしていきたい。年間のスケジュール資料について、大まかであるが説明したい。

委員長：時間かかりながらここまで来ている。1回目の内容や方向性がわかりづらかったこともあり、委員会の進め方などいただいたので活かしていきたい。スケジュール案はこれまでの検討も踏まえた内容を混ぜている。運営について3回目から具体的な内容にしていきたい。在り方、進め方のルールまとめたもの送りたい。皆さんが確認できるようにし、再開した委員会が今後も続いていくように土台をしっかりとつくっていききたい。市民提案も行政に反映していけるようにしていきたい。皆さんにも協力いただくことが増えると思う。

<事務局より委員会スケジュール案改訂版資料を説明>

委員長：案であるので、意見あればいただきたい。様々な細かい点もルール化していきたい。

委員：報告会は、誰に向けて行うのか。

委員長：これまでは市民に周知し、委員会の年間の集大成として市民向けに発表していた。

委員：12月は確定でよいか。

委員長：提言というかたちで市長に渡すという役目が大義であったと感じている。その発表が12月にあると思っている。ワークショップ案だが、事務局と連携しスタートしようと思っていたものである。こんなワークショップがあるなどあれば意見をいただきたい。

委員：ワークショップは我々か学生か。

委員長：学生と一緒に。ご意見あれば委員終わった1週間以内で送っていただきたい。また委員会運営をする上でいろいろな意見を入れて進めていきたいので3名ほどご協力をお願いしたい。

<委員3名立候補>

委員長：よろしくをお願いしたい。次回は3月17日木曜日で場所は市役所でのよいか。

事務局：中清戸センターになる。